






ゼパニヤ

-  **書いた人** ゼパニヤ預言者
-  **ゼパニヤの意味** 主が隠された者
-  **時期** 南ユダ第16代王であるヨシヤ (BC640~609年) の時代の中で活躍

核心聖句

あなたの神、主は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。(ゼパニヤ3:17)

パパとママとまず理解するゼパニヤ

神様が福音を先に知らされた国イスラエルが、契約をのがしました。そうするうちに、いろいろな国に属国、捕虜になって、苦しみの中で、また契約を回復する働きがくりかえされました。神様の契約が回復するとき、神様はいつも「残った者(レムナント)」を用いられました。

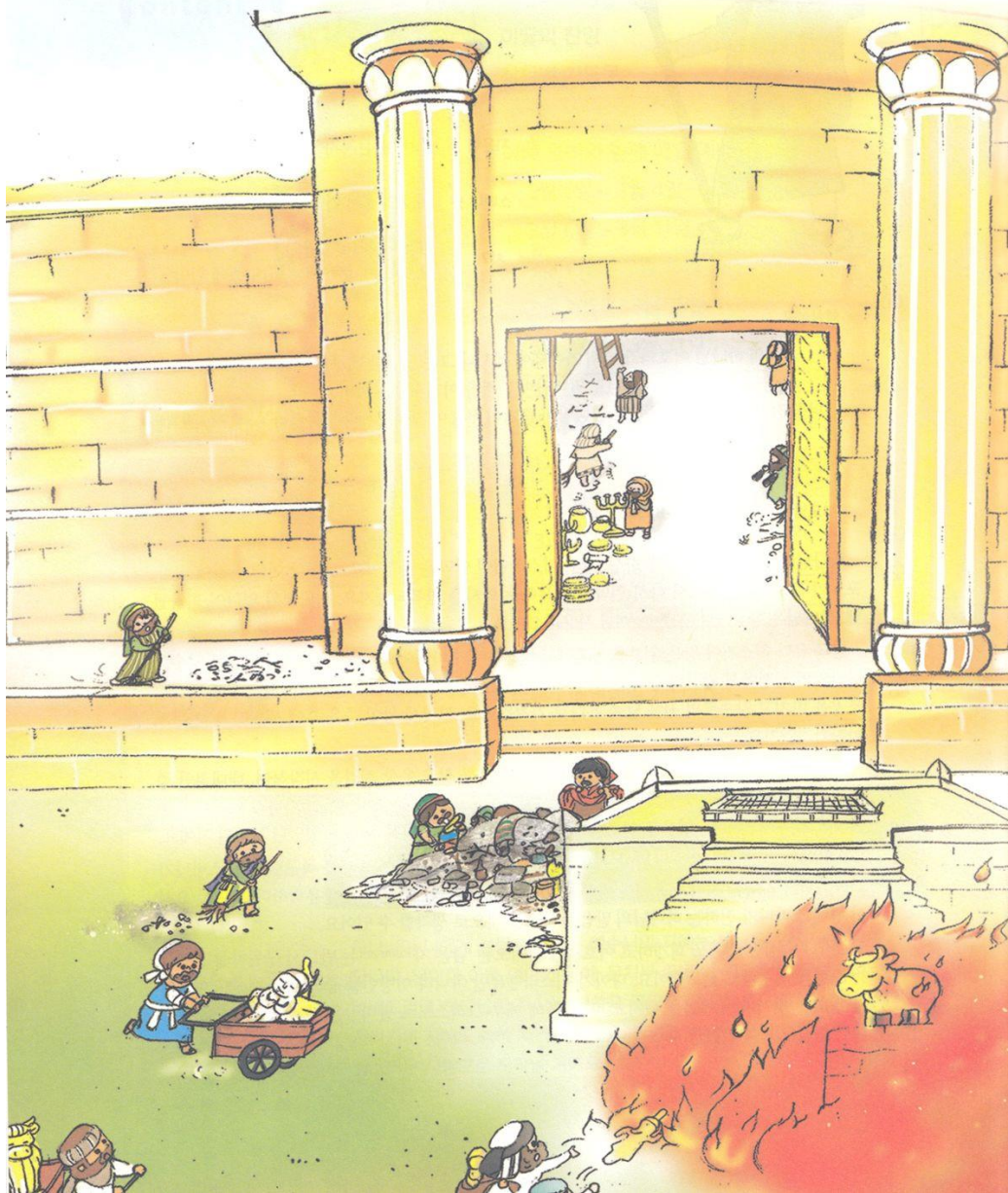
南ユダのヒゼキヤ王は、偶像を破壊して、神殿をきよめました。彼は、ただ祈り一つでアッシリアの国との戦争で完全に勝利した王です。しかし、ヒゼキヤ王の後のマナセ王は、アッシリアにみつぎものをささげて、アッシリアの神々を南ユダに持ってきました。マナセ王が死んだ後にたてられた王アモンも同じでした。

その後たてられたヨシヤ王は、若い年齢でしたが、主を求めて、偶像をなくしはじめ、大々的に宗教改革を始めました。その時代に活動した預言者がゼパニヤです。ゼパニヤは、ゼパニヤ書の最初に自分がヒゼキヤ王の4代目の孫であることを明らかにしています。ヒゼキヤ王の信仰をよく知っていた人だったのでしょう。

ゼパニヤは、神様のみことばを受けて、主の日のさばきを宣言しながら、悔い改めるようにすすめました。ゼパニヤがゼパニヤ書を記録した時期は、ヨシヤ王が宗教改革をする前だったという説が有力です。ヨシヤ王がゼパニヤが伝える神様のみことばを聞いたと考えられます。

ゼパニヤは、さばきの中にも悔い改めと主に立ち返る「残った者(レムナント)」は必ず救われるという希望のメッセージも宣言しました。また、イスラエルだけでなく、異邦人の中の選ばれた民も主をおそれ敬うという預言をしました。それを通して、イエス・キリストによって世界的メシヤ王国に対する絵も見せてくれたのです。

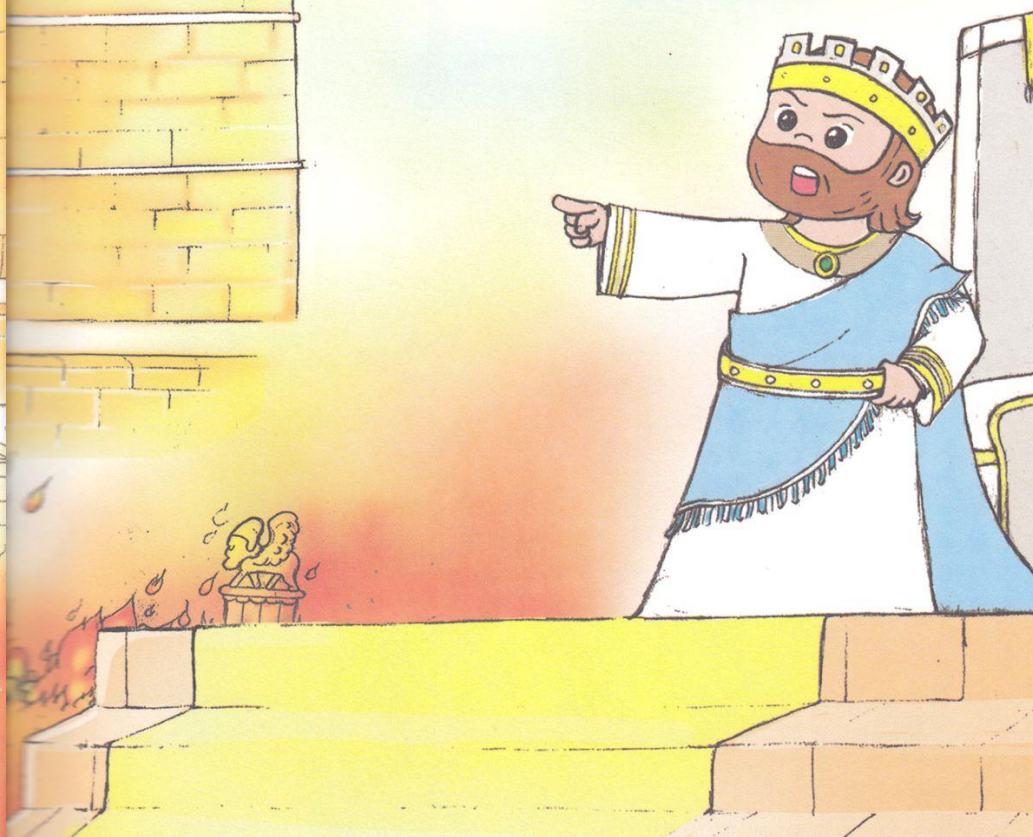
みなみユダの ヒゼキヤおうは
かみさまの めに ただしい おうさまでした。



「かみさまの しんでんを きれいに きよめて
すべての ぐらぞうを やいてしまいなさい！」

「わたしたちが エジプトの どれいだった とき
かみさまは ひつじの ちを ぬった 日に
でてくるように してくださったんだな。

すべての たみは その日に きねんして
すぎこしの まつりを かいふくしなさい！」





あるひ アッシリヤの くにが おおきな ぐんたいを
つれて ユダの いくつかの まちを うばっていきました。

ヒゼキヤおうは おそれました。

アッシリヤの おうさまに あやまって きんと ぎんを
わたしたのですが ゆるして もらえませんでした。

けっきょく ヒゼキヤおうは しんでんに のぼって行って
さけんで いのりました。

ヒゼキヤおうが いのった
その日の よるのことです。



かみさまは みつかいを おくって
アッシリヤぐん 18まん5せんにんを うたれました。

ヒゼキヤおうは ただ いのり ひとつで
せんそうに しょうりしました。

ヒゼキヤおうが しんで たてられた マナセおうは
かみさまの めには わるい おうさまでした。

おおきな かみのそうを
つくって おがむことが
できるように せよ!

バアルの かみに
いけにえを
ささげよ!

アシエラの めがみの
そうを つくれ!

たいよう、つき
ほしを いのりに
いかなければ ならない!



かみさまの たみが
ほかの かみがみに つかえたので
かみさまは とても
いかられました。
かみさまは アッシリヤの おうが
ユダを せめるように され
くるしい めに あうように
されました。



それゆえ マナセおうは
かみさまに くいあらための いのりを しました。

マナセおうが しんだ あとに たてられた
アモンおうは また ぐうぞうに いけにえを
ささげました。

アモンおうは おうに なって まもなく
しんかに ころされて しまいました。

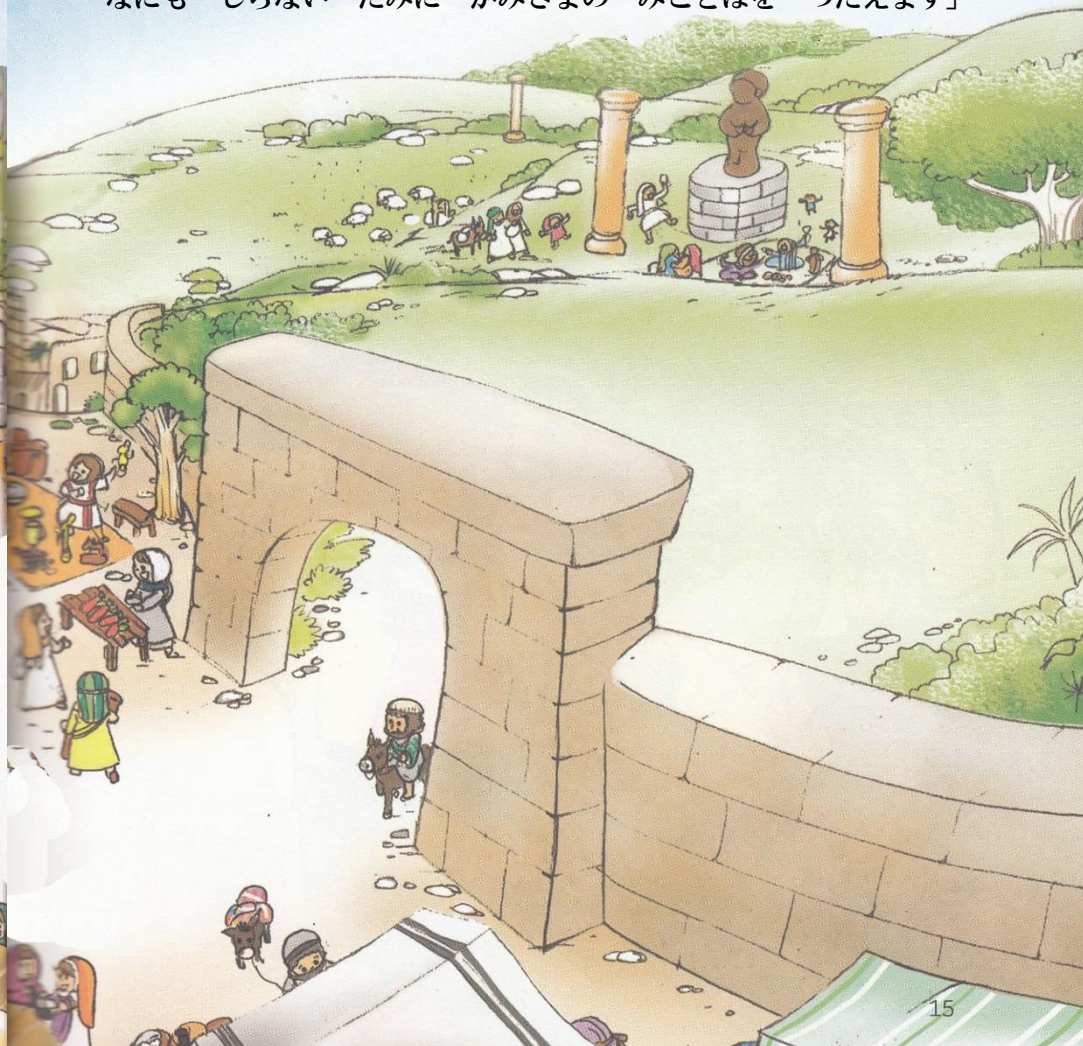
アモンおうが しんで 8さいの ヨシヤが おうさまに なりました。
そのときは いぜんの おうさまが したように こどもたちも
パパやママの した とおりに バアルの まえに おじぎを
していました。 そのように することは べつに
おかしいことでは なかったのです。
あぐれいに つかえる さいだんの まわりには いつも ひとびとが
あつまっていました。 そして ものを うる おみせも あって
たのしいことも たくさん ありました。

ぐうぞうに よるこんで つかえる たみを みる ときごとに
おそれて ころを いためる ひとが いました。
「かみさまが かくされた」という いみの なまえをもつ
ゼパニヤよげんしゃ でした。



ゼパニヤは ヒゼキヤおうが ぐうぞうを こわしたことを していました。
ヒゼキヤおうが いのりに しゅうちゅうして アッシリヤとの
せんそうに しょうりした ことも していました。

「かみさま! かみさまの たみが かみさまより ぐうぞうを
もっと あいしています。
ヒゼキヤおうが いのった ときに しゅの みつかいを おくって
こたえて くださいました。 わたしが いのる ときも
かみさまの みことばを うける こたえを ください。
なにも しらない たみに かみさまの みことばを つたえます」



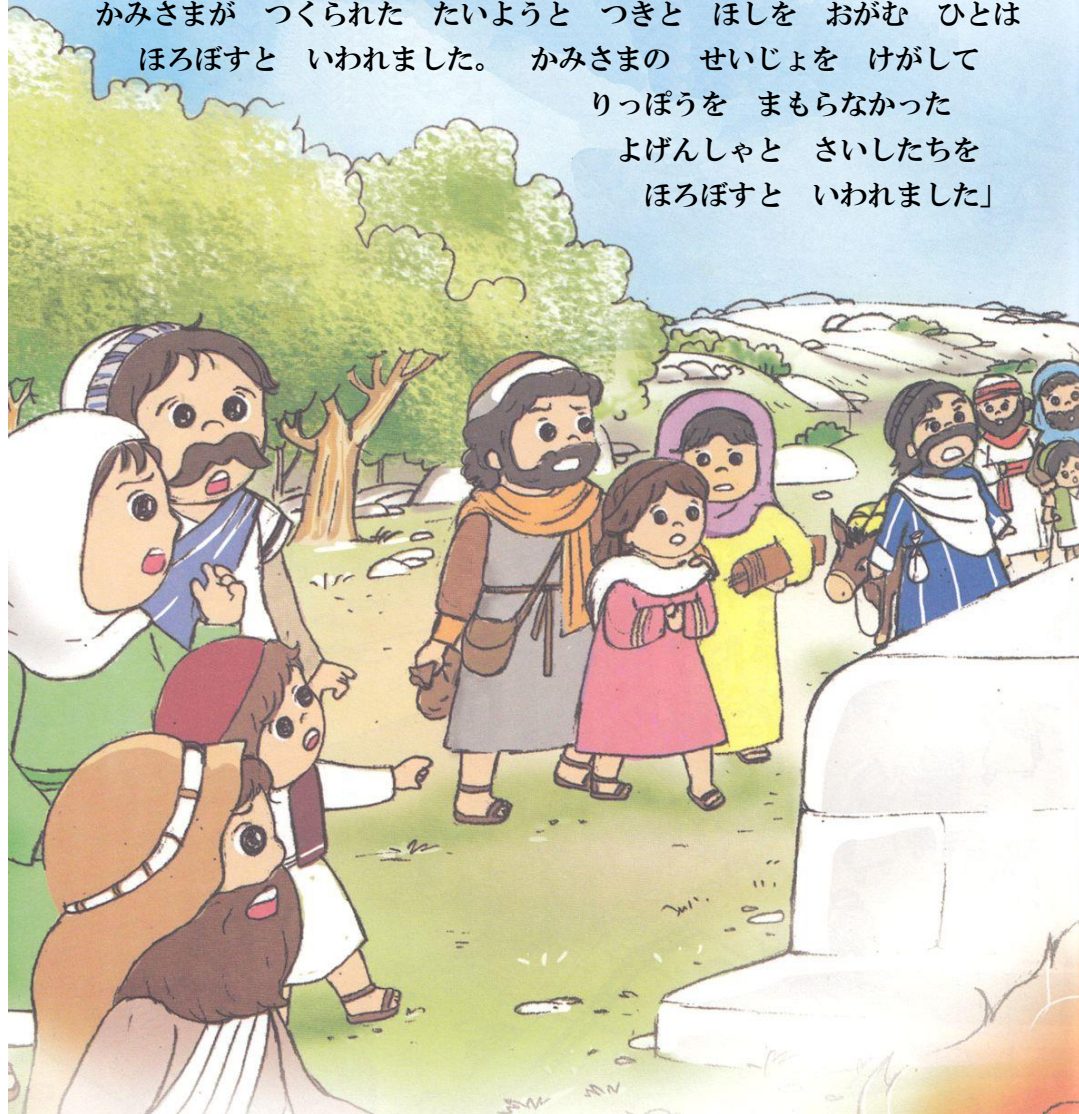
いのる ゼパニヤに かみさまの みことばが のぞみました。

「みなさん！ かみさまの さばきの目が ちかく はやく きます。

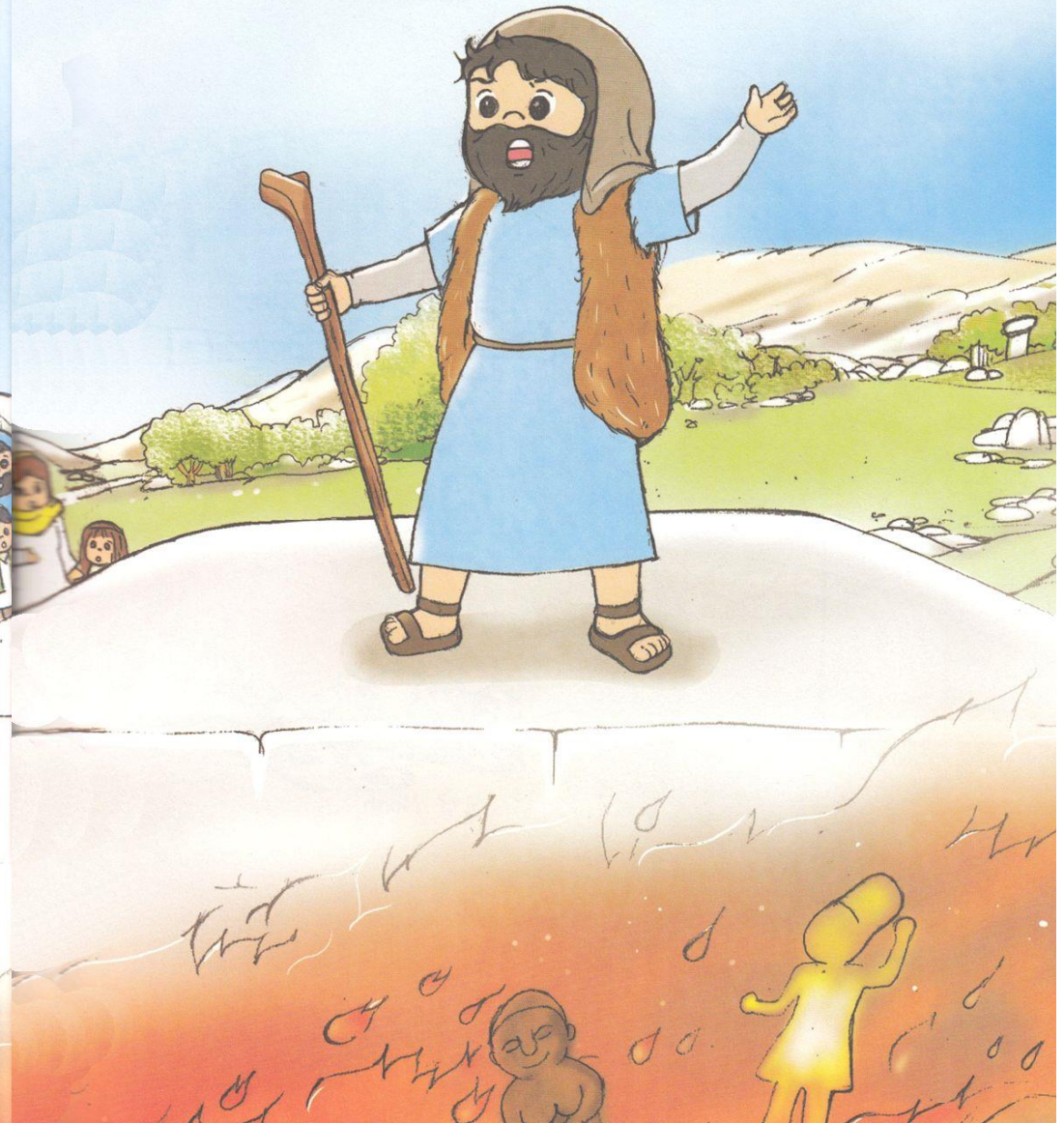
その目は ひとびとが かみさまの ねたみの 火で
やきつくされるでしょう」

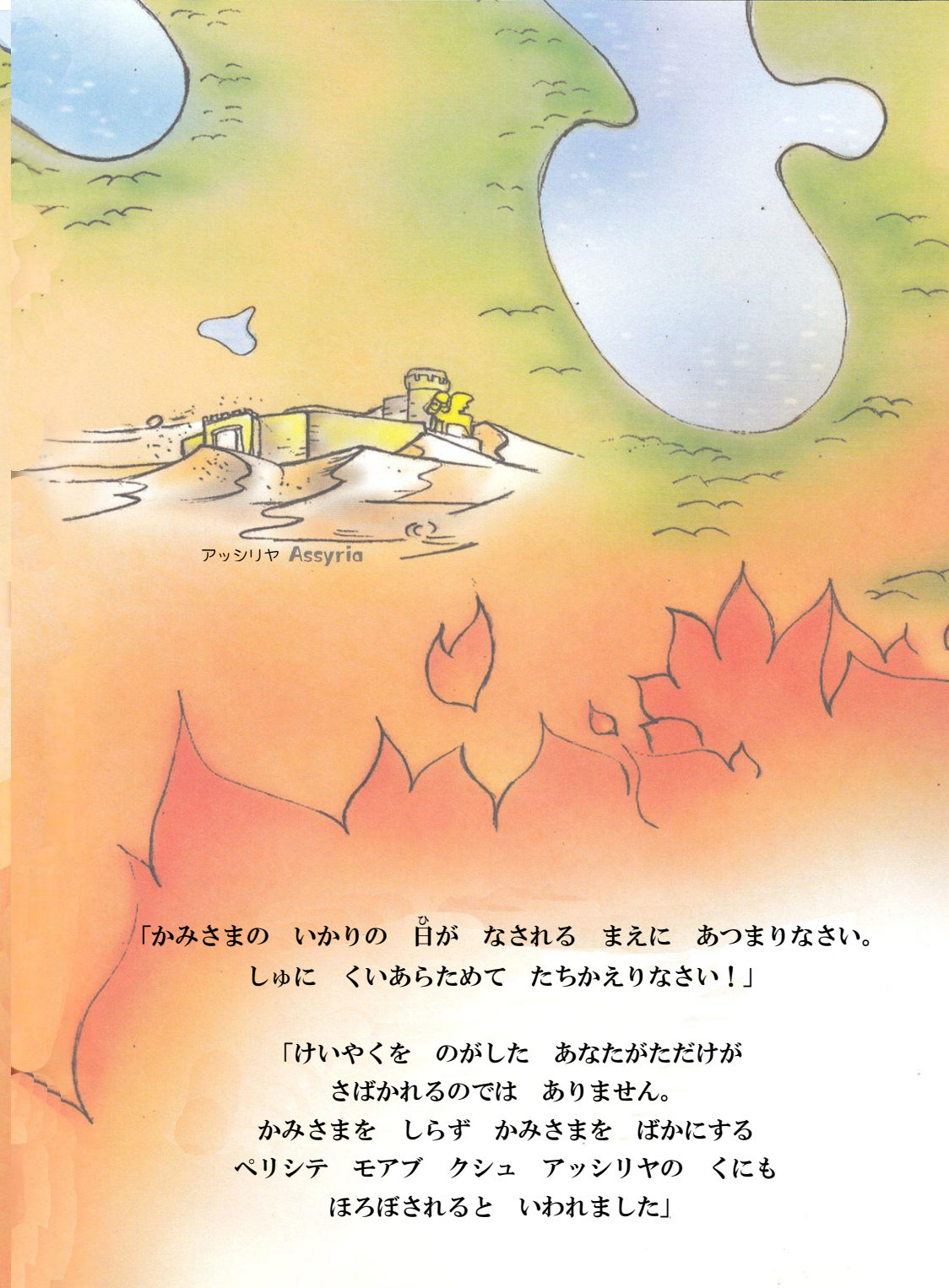
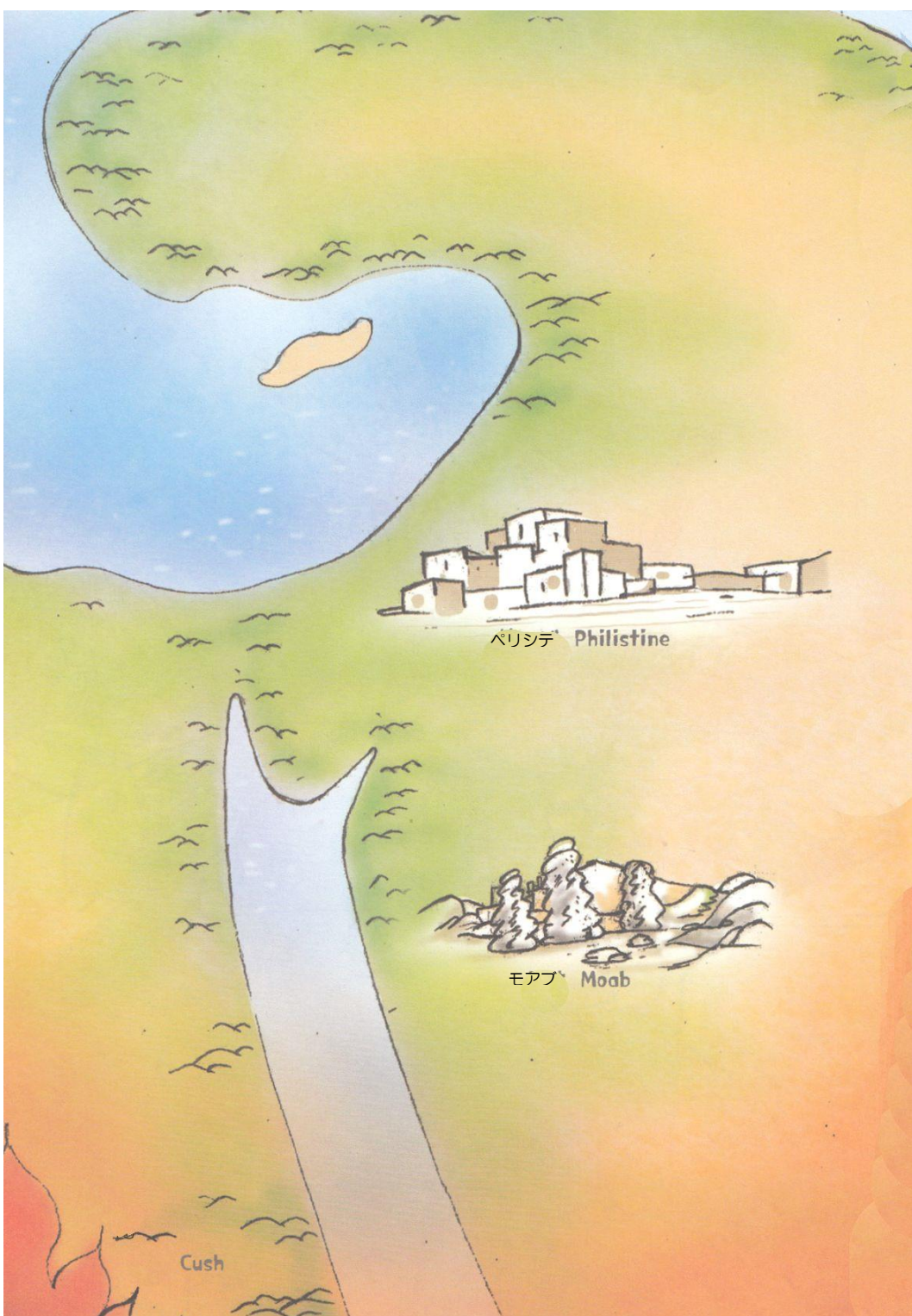
「かみさまが マナセおうの ときにおおくの ひとが していた
バアルに おがむことを なくせと いわれました。

かみさまが つくられた たいようと つきと ほしを おがむ ひと
は ほろぼすと いわれました。 かみさまの せいじょを けがして
りっぽうを まもらなかった
よげんしゃと さいしたちを
ほろぼすと いわれました」



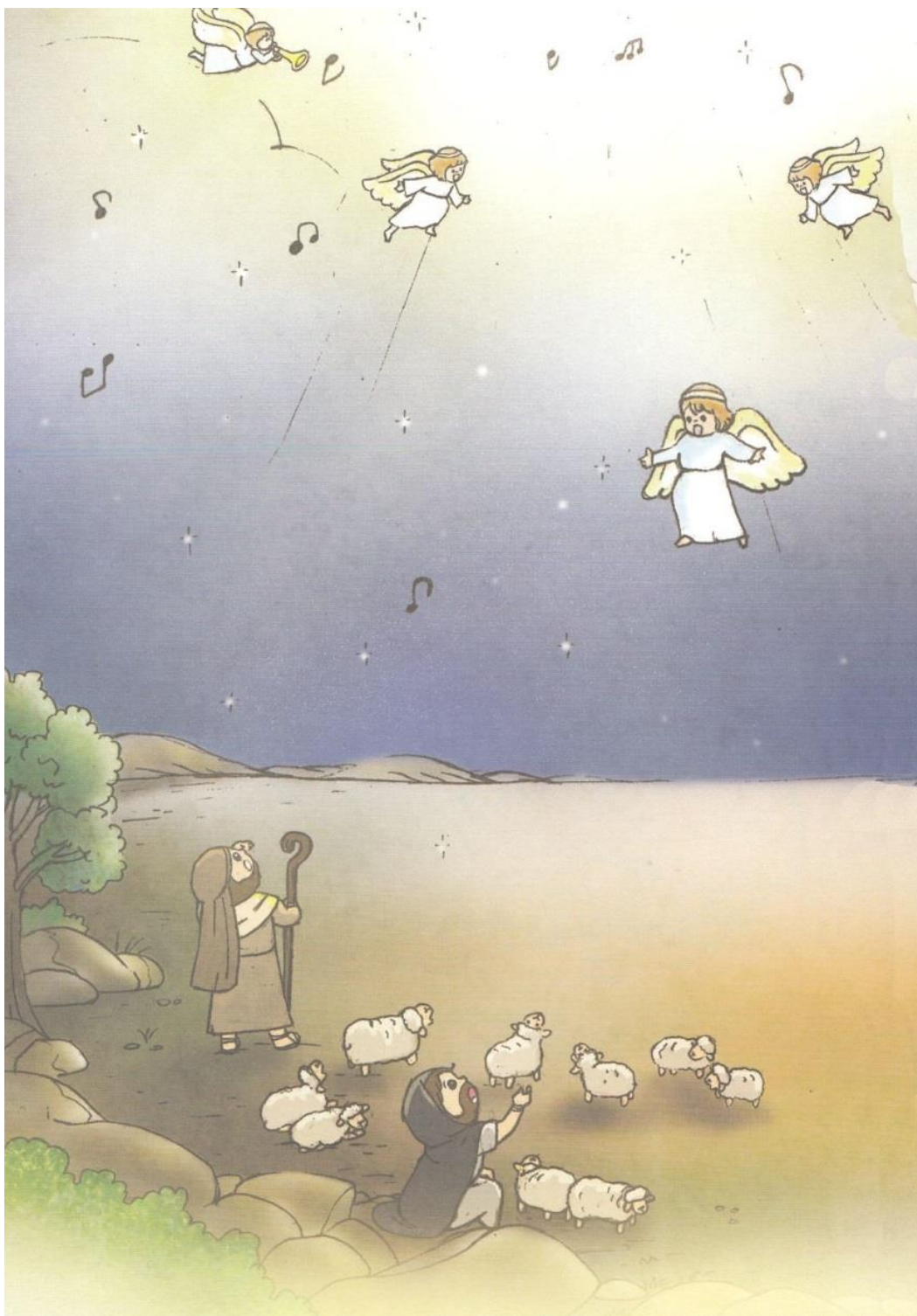
「その ときは あなたがたが あいしている きんと ぎんは
すくって くれなんでしょう」





「かみさまの いかりの 目が なされる まえに あつまりなさい。
しゅに くいあらためて たちかえりなさい！」

「けいやくを のがした あなたがただけが
さばかれるのでは ありません。
かみさまを しらず かみさまを ばかにする
ペリシテ モアブ クシュ アッシリヤの くにも
ほろぼされると いわれました」



「その日には わたしたちが すむ エルサレムを
さばくと いわれました」

「しかし よろこびなさい！
かみさまは わたしたちの つみのゆえに
うけなければ ならない ばつを なくすと いわれます。
わたしたちを くるしめる てきを おいだされます。
わたしたちの なかに おられると いわれました」



「ぜんこの かみさまが わたしたちと
ともにおられます。
わたしたちに えいえんな すくいを くださいます。
かみさまは よろこびを もって
わたしたちの ことを よろこび
たのしまれます。
そして わたしたちを あいして
やすらぎを くださいます！」

ゼパニヤ よげんしゃは ヨシヤおうと たみに
ねっしんに かみさまの みことばを つたえました。

ゼパニヤよげんしゃが はたらいていた ときの ヨシヤおうは
そのまえの ふたりの おうさまとは ちがって
ぐうぞうを なくしました。

そして かみさまの けいやくを もういちど かいふくしました。

かみさまを はなれた にんげんは みんな つみびとです。
かみさまを することも なく ほかの ことを もっと あいします。
かならず かみさまの さばきを うけるしか ありません。
しかし かみさまは わたしたちを あいして くださって
えいえんな すくいぬしを おくって くださいました。

そのかたが イエス・キリストなのです。



ひつじの ちを めった
日に わたしたちを
すくわれた かみさまに
すぎこしの れいはいを
かいふくしなさい!



「これから アッシリヤを こわがって
みつぎものを おくるのを やめなさい!
アッシリヤから はいってきた バアルの かみも
おがんで は ならない!
アシェラの そうも すぐに やいてしまいなさい!」

「けがれた かみさまの しんでんを
しゅうりして きよめなさい!」

